

第2回八千代市地域ケア会議記録

開催日	令和1年9月30日			開催時間	19:30～21:30		場所	市役所別館2階第1.2会議室		
公開又は非公開の別	公開	傍聴人定員数			50名		傍聴人数	26名		
参加者 (敬称略)	事例提供者	氏名	小林 奈津子	所属	八千代市阿蘇・睦地域包括支援センター	職種	主任介護支援専門員	事例1		
		氏名	氏家 和紀	所属	八千代市阿蘇・睦地域包括支援センター	職種	社会福祉士	事例2		
	事例に関わる介護サービス事業者	氏名	井上 正	所属	(株) フロンティア	職種	福祉用具専門相談員	事例1		
		氏名	脇山 希代子	所属	パールケア訪問サービス八千代	職種	サービス提供責任者	事例2		
		氏名		所属		職種				
		氏名		所属		職種				
	第2層生活支援コーディネーター	氏名	野添 江利子	所属	八千代市阿蘇・睦地域包括支援センター	職種	主任介護支援専門員	事例1.2		
	助言者	氏名	得本 鋭也	所属	八千代市医師会	職種	医師			
		氏名	河野 真吾	所属	八千代市歯科医師会	職種	歯科医師			
		氏名	金谷 法好	所属	八千代市薬剤師会	職種	薬剤師			
		氏名	北 川 ト シ 子	所属	八千代市訪問看護師会	職種	看護師			
		氏名	小川 佳宏	所属	千葉県理学療法士会	職種	理学療法士			
		氏名	山田 智美	所属	八千代市介護サービス事業者協議会	職種	主任介護支援専門員			
		氏名	鈴木 孝将	所属	八千代市介護サービス事業者協議会	職種	生活相談員・施設介護支援専門員			
		氏名	八巻 裕美	所属	八千代市社会福祉協議会	職種	第一層生活支援コーディネーター			
		氏名		所属		職種				
	事務局	氏名	齋田 忠徳	所属	長寿支援課	職種	課長			
		氏名	若林 栄子	所属	長寿支援課地域包括支援センター	職種	所長			
		氏名	早川 哲弘	所属	長寿支援課	職種	主査			
		氏名	我孫子 香代子	所属	長寿支援課地域包括支援センター	職種	主任保健師			
氏名		石橋 さなえ	所属	長寿支援課地域包括支援センター	職種	主任保健師				
氏名		関口 直紀	所属	長寿支援課地域包括支援センター	職種	主任介護支援専門員				
氏名		小沼 真琴	所属	長寿支援課地域包括支援センター	職種	社会福祉士				
氏名		鈴木 翔平	所属	長寿支援課地域包括支援センター	職種	保健師				
傍聴人	市民		1	名	介護支援専門員	12	名	介護サービス従事者	0	名
	医療従事者		0	名	地域包括支援センター職員	13	名	合計	26	名

事例概要	地区	大学町	年齢	84	性別	男性	世帯類型	夫婦のみ	
	要介護度	要支援 2	認定期間	令和1年6月6日	～	令和2年6月30日			
	家族構成	同居：妻 別居：長女，次女，長男			キーパーソン	長男			
	診断名	右変形性膝関節症	高血圧症						
	サービス内容	介護予防福祉用具貸与	介護予防住宅改修						
検討テーマ	妻の介護を続けられるような心身機能を保つためにはどのようにしたらよいか。								
内容	本人は、要介護1の妻のため、自家用車を使用し、通院介助、買い物等を行い、日常の家事のほとんどを行う。本人は右変形性膝関節症があるが、高齢のため自動車運転免許の返納を検討中。妻の介護は自ら行うことを希望しているが、筋力低下や膝関節の痛み、脱力を感じており、今後介護が続けられるか心配している。								
事例1	助言内容	内容						発言者	
		体重管理が重要。増加が膝への負担や高血圧に影響している。体重管理は、主治医だけでなく多職種による助言が必要。早朝からの運動は、遊離脂肪酸が増え突然死の原因になることがあるため、内科の医師と相談した方がよい。また、整形外科の医師からメニューが出ているため、元気体操が適しているのか確認した方がよい。						得本	
		少ない残存歯に部分義歯のクラスプ（ばね）を架けており、歯槽膿漏で近い将来欠損する。階段を降りる際、歯を食いしばるために歯が重要。残存歯が痛ければ、抜歯して総義歯にした方が安定する。年齢が上がり、血圧が高くなると抜歯もできなくなる。						河野	
		運転免許返納後は、膝への負担軽減のため、例外給付にはなるが、セニアカーの利用が有効ではないか。バスの年間パスポートよりも安価で、社会参加にもつながる。						井上	
		デバスに筋肉を緩くする作用があり、転倒のリスクを高めるため、睡眠の状況を確認する。鎮痛剤は腎臓に負担を掛けるため、痛みがあるのなら鎮痛剤の内容や服用方法も検討する。（頓服など）						金谷	
		床からの立ち座りは筋力維持する側面もあるが、階段の昇降などは本人の負担になっている可能性もある。2階建て住居であるが、1階部分の活用も有効。日々の筋力トレーニングは、傾斜の緩やかな外階段を活用してはどうか。膝の痛みがあるため、介護用のベッドを利用することで、頑張り過ぎないようにする。落ち着いたら通所リハビリテーションを利用する。セニアカーの利用は賛成で、遠くに出かけるときはセニアカーを利用し、近場は歩いていくのが理想的。						小川	
		興味関心チェックシートから、してみたいことが多くあり、大学町は自治会や老人クラブ活動が活発なため、役割を持ち積極的な参加ができるように働きかけるとよい。						八巻	
住宅改修もデイケアも2箇所から選んでおり、自ら判断できる。今後、施設入所を検討しているのであれば、金銭的にも施設の選択肢が広いので、今のうちから見学しておくといい。「病弱な妻を支える」ためには、本人が自分のことに専念できる時間も大事であり、本人に合うデイサービスの利用を勧めてみてはどうか。自分のためにサービスを導入を勧めても一歩踏み出せない場合、「妻のために本人のサービスを導入してはどうか」と勧めると踏み出しやすいのではないかと。						鈴木			
ケアプランにデイケア利用までは地域の中で体を動かせる機会として地域のサークルで支えようとするのが素晴らしい。責任感が強く、すべて自分で抱えようとするため、妻のケアマネジャーをつけることで負担の軽減し、自分のために使う時間を持つようにた方がよい。						山田			
地域課題	地域活動は活発だが、高齢の夫婦を支えるまでには至らない。						野添		
	特別介護老人ホームはなみずきの移送サービスはあるが、それ以外なく、移送の助け合いが不十分。						野添		
感想等	2階に寝室があるが、トイレもあるため、それ程負担にならないと感じていたが、毎日の積み重ねで階段の昇降が長期的には負担になること知れたので、今後本人に痛みを確認し、1階での生活を提案したい。						小林		
	現状でも良いが、膝への負担が掛かっている可能性があるため、1階での生活や特殊寝台の提案をしたい。また、セニアカーについては、使用する場面を限定して利用を提案したい。						井上		

事例概要	地区	米本団地	年齢	85	性別	男性	世帯類型	独居
	要介護度	要支援2	認定期間	令和1年7月1日	～	令和4年6月30日		
	家族構成	本人、長男（60歳代別居）、次男（50歳代別居）			キーパーソン	長男		
	診断名	高血圧症						
	サービス内容	訪問型サービス						
検討テーマ	本人が主体的に取り組める介護予防について検討したい。							
内容	S県で結婚後、2児を儲けるが離婚し、単身生活となる。70歳まで働いた後、米本団地に転居。独居で身寄りが遠方のため、任意後見制度を利用。平成30年4月に腰痛・膝痛で転倒することがあり、介護申請。ヘルパー利用するも、市販薬の服薬により改善が図られたといい、同年10月でサービス終了。しかし、今年7月、阿蘇・陸地域包括支援センター主催の「朝カフェ」に参加した際、腰・膝痛を訴えたため、再度介護申請し、ヘルパー利用に至る。生活への助言はあまり聞き入れず、運動を好まず、昨年より2.3kg体重増加している。							
事例2 助言内容	内容							発言者
	電気工事の仕事をしていたため、地域の高齢者宅の電球交換など簡単な手助けをすることで社会参加の機会を持つとよい。							八巻
	肥満、高血圧といったメタボリックシンドロームであり、循環器疾患の危険因子となる。体重管理が必要だが、周りの手助けがなければ上手く行かないため、多職種による支援が必要。グラフを作って管理することや、3食きちんと食べるよう助言することが必要。肥満の方には、食べ方に癖がある。高齢になると不定愁訴が多く、典型的な症状を訴えないことが多いため、整形外科受診を奨める。							得本
	三輪バイクに乗り買い物に出掛けていることから、買い物の支援者として活動できたら良い。地域との交流を望んでいるため、ヘルパー以外のお出外や社会参加ができるようなサービスや取組みをケアプランに位置づけるとよい。							山田
	コンドイチン含有した市販薬は360錠（2か月分）で11,500円と高額。経口では成分が吸収されにくいいため、本当に効いているかは不明。整形外科への受診や体重管理を行う方がよい。							金谷
	残存歯が28本中24本程度残っている。85歳の男性で半年に1度歯科通院し、歯のメンテナンスしているのは、珍しい。それが出来ているということは、自分に対する興味を失っていないということ。歯が多い人は、加齢に伴い手の巧緻性が低下し、磨き残しから歯周病になり、歯を失う可能性がある。半年に1度定期健診に行っている間は、問題ない。清涼飲料水やコーヒーをよく飲んでいるが、歯にとってはあまり良くない。夜ではなく朝飲む分には人としゃべるなど金が繁殖する時間は少ない。この年齢の方であれば、自己流の健康管理は、必ずしも否定するものではない。							河野
	痛みが軽減したことを理由に訪問サービスを終了しているが、この年齢の方が必要性に応じてサービスを終了するのはとても勇気にあること。外交的な性格もあるため、自立心をサポートすれば、健康増進を進められるのではないかと。出来ることを表にまとめ、出来たことをチェックしていく。1か月もすると、自分自身がよく見えるようになる。達成したらよりレベルの高い課題を設定する。持っている力を引き出せる形で側面的に援助するとよい。この方であれば出来るように思われる。							北川
現在、自己流に突っ張り棒を杖替わりに使用している。杖は、立位を保持するために必要な支持基底面の中で重心がぶれないようにするために重心を外側に持っていくことを目的として用いられる。そのため、適切な高さや持ち手が有効となる。適切な杖を使った方がよいと、本人の意思をうまく誘導し、正しい知識を導いて欲しい。両下肢脱力はあるが、疼痛はない。脊柱管狭窄症があるかも知れないので、整形外科受診して検査を受けた方がよい。							小川	
趣味もなく仕事一筋で過ごしてきたため、自己流での生活が身についているのではないかと。これからの役割があればよいが、現状でも十分にできることを行っているように感じる。100円で朝食が食べられる「朝カフェ」は、収入面であっても他者との交流の面でもメリットがある。男性は気分を持ち上げるために、女性から褒められる方がよい場合と高齢の男性が共感してくれる方がよい場合があるため、朝カフェのボランティアも含め関わってもらおうとよい。							鈴木	
地域課題								
感想等	メタボリックシンドロームや廃用症候群を考えると、自己流の介護予防には限界があるので、専門的なアプローチはしたい。電気関係の仕事をしていたので、本人の強みを地域に活かしていきたい。							氏家
	男性でも自ら朝カフェに行くのは、「ちょっと面倒だと思うのだけれど、何か情報が入ればと思い通っている」とのこと。ボランティアなどぜひ参加してもらいたいと思う。また、女性が声をかけた方が良ければ、女性ヘルパーが多いため力になればと思う。							脇山
	介護予防を進めるには、一人ひとりの検討を進めながら地域での支援体制を推進する必要があると感じた。							野添